

第14回高山駅周辺地区まちづくり協議会議事要旨

日 時 平成25年7月4日（木）15:15～16:37
場 所 飛騨・世界生活文化センター
食遊館地下1階 大会議室
出席委員 14名

《会長あいさつ》

《議 事》

高山駅東西駅前広場計画（素案）について

【設計者】 それでは説明させていただきます。駅舎の設計に関しては、JRさんに対して提案していますが、JRさんは内部で自由に設計したいという思いがありますので、どこまで提案を聞き入れていただけるのか難しい状況ですが、踏み込んでいきたいと思います。

自由通路に関しては、壁の下の方をできるだけオープンにして、風景を見れるようにしたい、それから基本的には木で作りたいと考えている。内壁には高山の祭り屋台を3分の1のサイズで表現することを提案したいと考えている。

駅前広場に関しては、キャノピーを配置したいと考えている。実は私は高山駅前の街並みをそれほど綺麗だとは思っていません。現在は駅を降りてすぐに、古い町並みを思い浮かべるには非常に苦しい状況です。将来、高山の古い町並みが世界遺産に指定されて、たくさんのお客様がみえるようになれば、市街地整備にも次第にお金を使えるようになってくると思いますので、その時は駅前市街地を綺麗に整備して、いわゆる高山の前庭にふさわしい街を作ることにも可能だと思う。まずは、駅前広場を世界遺産にふさわしい綺麗なものを作りましょうということが今回の提案です。それから、キャノピーの素材を何にするのかはこれからの課題ですが、高山は積雪が結構ありますので、大抵のことはやっても美しくいきませんので悩んでいます。今考えているのは、最近色々な駅前広場で使われているアルミパネルは良く出来ているので、これを使って出来るだけ存在感のない、軽やかなものにしたいと考えている。

水盤に関しては、これを作る理由は、まず一つは夏の暑さ対策として、水があったらいいかなと思ったからです。ただ、公共施設に水場は鬼門でして、行政が一番やりたくないことです。できたら止めて欲しいと言うと決まっていますので、その辺は皆様の希望が強くないとこれは消えてしまいます。

以前、ある公共施設を設計した際、45m角の中庭の真ん中に水盤を作りました。勾配は大体 100 分の 1 でして、水を抜くと 5 分から 10 分位で普通の広場になります。水深が非常に浅くて水たまりのようなものです。県の担当者からは、「子供が溺れたらどうするのか。」と文句を言われましたが、完成後は水を常時入れたままで使用していました。あれほど文句を言った県の担当者は、「水盤をもっと広くすれば良かった。」と言っていました。暑い時はそこで涼めて、冷たい風が通り、そして子供たちが喜びます。水が色んな役割を果たしてくれます。古い町並みへ出かける前に、水盤でひと休みはいかがでしょうというのが我々の提案です。

シンボルツリーに関しては、出来るだけ樹径があって大きくなって、たぶん 3 世代から 4 世代受け渡していく訳ですから、「曾爺さんの頃にあの木を植えたんだよ。」なんていう木があってもいいのではないかなと思う。木はその場所の記憶を繋ぐ大事な要素になるので、何かを植えたらどうでしょうかという提案ですけど、そんなの邪魔だとか場所を有効に使いたいという意見もあるかなと思う。

観光案内所に関しては、観光都市として観光案内所は駅前の主役の一つですので、できるだけ広場の空間にさらすような素材で作ってはどうかと考えている。夜は光を発するような、行燈ではないですが広場に対する明りをここから採れるものを考えている。

小広場のショーケースに関しては、細かい展示の仕組みなどはこれから詰めないといけませんが、大きくは高山の文化、技術を見せていこうということをこの小広場で表現できないかと考えている。それに対して、回廊広場の中は基本的に立ち上がりの目立ったものは考えていません。その理由は、あまり駅前の空間に色々なものが一杯立っていると、おもてなしの空間がどういう空間なのか分かりづらくなるからです。

各ファニチャーに関しては、年月に耐えうる素材ということで鋳鉄で考えていますが、地元技術の活用についてはこれから詰めていきます。例えば鋳物屋さん和鍛冶屋さんのものを組み合わせられるものは組み合わせていきたいと考えている。幟立てに関しては、神社に行くと入り口に幟がありますが、今は駅の中に「ようこそ高山へ」というサインがあるらしいのですが、もう少し神社の幟のように、幟を立てておもてなしとして使ったらどうかと考えている。照明に関しては、キャノピーの天井下に照明があり、広場には目立った照明施設は見えないイメージで考えている。しっとりとして静的な空間を目指していて、地元の技術あるいは素材を活用したいと考えている。

駅舎に関しては、建具屋さんに作っていただいた建具を分割して、表に

出すとすぐに傷みますのでガラスの内側に入れます。そうすると夜は駅舎内の光で、夜の古い町並みのようなイメージになります。高山駅は高山の玄関口ですから、ＪＲさんには是非とも気を使って欲しいという要望を、市役所側からよりも市民側からそういう声が上がっているということを言った方が、ＪＲさんは採用してくれると思う。ＪＲさんと市役所は権利の主張の違いから対立することが多いので、むしろ市民側からの要望に関しては、ＪＲさんは割と聞くというような癖を持っていますので、こういう形で良いかは別として議論させて欲しいということを要望した方が良いと思う。

【会 長】 皆様から意見を伺う前に、本日 11 時から開催されました第 13 回高山駅周辺地区まちづくり協議会部会の協議結果について、六角副会長からご報告いただきたい。

【副会長】 本日開催されました第 13 回高山駅周辺地区まちづくり協議会部会にて、5 つの質問事項を中心に部会委員の意見を伺いましたのでご報告します。

小広場のショーケースに関しては、結露の発生、温度・湿度の急激な変化、直射日光の問題があるので、木作品の展示が多くなることを考えると展示は難しいとの意見、それから近年は大変暑くなってきましたので、小広場に屋根を付けてはどうかとのことでした。

シンボルツリーに関しては、樹種はイチイが良いとの意見、広葉樹は落ち葉の掃除が大変との意見、金沢駅前の木製のモニュメントを見られた方が、シンボルツリーに限らず木製のモニュメントも考えられないかとのことでした。

融雪に関しては、キャノピーの下は全部融雪にしていいただきたいとのことでした。

明かりに関しては、古い町並みの温かい照明のイメージ、ほっとできる色を使っただけだと、高校生等もほっとできるのではないかとのことでした。

高山ならではの技術に関しては、自由通路の中やキャノピーに高山格子などを使っただけだと、高校生等もほっとできるのではないかとのことでした。

その他の意見として、キャノピーは幟立てと幟立ての間には要らないのではないかと、幟立てに使うクレーンと除雪用のペイローダーは回廊広場内に入れるようにして欲しいとのことでした。

【会 長】 ただ今の部会の意見と同じでも構いませんので、皆様の意見を伺いたい。

【委員】 例えば、猛暑の名古屋で電車に乗って、高山に着いたら名古屋より暑かったということは結構あると思いますが、そんな時に例えば水盤があって涼めることは大賛成ですが、例えばポッポ公園には水盤がありまして、市民が涼める憩いの場として利用されていますが、水深は10cmから15cmでして、藻が張ったり落ち葉が入ったりしますので掃除が大変です。維持管理が楽になるような素材がないかをお聞きしたい。

それとショーケースは湿度などの問題がありますが、高山へお見えになった方がショーケースを見て、「あっ、屋台がある。屋台会館へ行ってみよう。」とか、あるいは木工品を見て「お店へ行ってみよう。」とか、そういったものを見ながら、あそこへ行こう、ここへ行こうという判断が出来て、ショーケースは良い判断材料になると思う。先程屋根の話も出ましたが、そういったことも含めてうまく展示品が傷まないような方法がないかをお聞きしたい。

【設計者】 水盤に関しては、メンテナンスのいらない水盤はありません。ショーケースに関しては、積雪、結露、日射の問題がありますので、工夫しないと難しいと思う。何を展示するのかということも問題です。ただ、木工品は展示したいですね。

自由通路の中でも展示できるものがあると思う。小広場にのみ展示するのではなく、自由通路と小広場のバランスを考えていくべきではないかと考えている。

【委員】 ショーケースに関しては、今言われたような自由通路を展示場として活用するという考えもありますし、今までと同じものではなくて、新しい技術やデザインの展示場にするのが良いと思う。

【委員】 水盤の水がない時はつまづかないよう安全にしていきたい。冬季は水盤を何かに活用できますか。

【設計者】 それは皆様のアイデア次第です。

【委員】 幟立てですが、祭りの幟が立っていない時でも、高山は歴史ある街ということが分かるよう設計していただきたい。

【委員】 展示については、小広場よりも自由通路の中に職人さんの発表の場を設けた方が良いと思う。もしくは小広場に屋根を付ける方が理にかなってい

と思う。

【委員】 展示品の説明をスマートフォンやタブレットで確認でき、同時に観光案内、交通案内といった全てのデータを確認できるような、データ通信を念頭に置いた設計も必要だと思う。

【設計者】 「高山は歴史ある街」というイメージがありますが、訪れてみると実はその後ろに最先端のデータ通信があるというのはとても良いと思う。

【委員】 高山の古い伝統や文化を大事にしながら、最先端の物を取り入れていかないといずれは消えてしまいます。「昔そういえば高山という街があったな。」というようなことになってしまいます。

【会長】 そうですね。将来のリニア新幹線の駅には切符売り場はなくて、携帯をかざすだけで情報が全部入手できるようになります。

【委員】 スマートフォンやタブレットに対応した情報発信は必要だと思う。あと水盤ですが、子供は必ず入りますので安全性が必要です。

【会長】 本日、欠席された委員から事前に意見をいただいていますので、事務局から報告をお願いします。

【事務局】 欠席された委員から質問事項に対するご意見を事前にいただきましたので、読ませていただきます。高山ならではの技術に関しては、飛騨の匠の伝統の技、例えば屋台修理、造園、左官の腕とアイデアを活用すべきではないかということです。シンボルツリーに関しては、高山に元々あった原生林のブナ、春の桜、秋の紅葉が良いのではないかとことです。ショーケースの活用に関しては、一位一刀彫の展示が良いのではないかとことです。雪対策に関しては、白川村の家のように流れる水や池で雪を溶かすようなことも必要でないか、イメージとしては古川の瀬戸川が良いのではないかとことです。明かりのイメージに関しては、ただ全体を明るくするのではなく、アメリカ的ではなくフランス的に、つまりほのぼのと小粋で洒落た小京都の明かりが良いのではないかとことです。

【会長】 ただ今の明かりのイメージの意見について、設計者の意見を伺いたい。

【設計者】 アメリカ的ではなくフランス的というのは良く分かります。情緒のある

明かりということだと思います。

【会 長】 設計者にお聞きしたいのですが、小広場の利用目的はどこに行くかを考える情報収集の場所、あるいは電車を待つ時間を過ごすための場所ということでしょうか。

【設計者】 高山線を電車に乗って来ると、山も川も奇麗で高山はいいところだろうなあとと思いますが、高山駅に降り立つと「あれっ」という違和感があります。ですから、色々なイメージを持った方が駅に降り立った時に、小広場は高山の期待空間であるべきではないかと思う。

【委 員】 JRさんには駅舎の照明を夜の半ばまで付けていただけるか、コストの問題がありますので心配です。

【設計者】 市民の要望が強く出ない限りは難しいと思う。通常ならコストの面から無理だと思う。

【会 長】 西口広場の利用者はどんな方を想定していますか。

【事務局】 東側と西側の人口比率は大体五分五分です。将来的に駅に東西両方から出入りができた時を想定すると、東側は観光客、西側は市民の利用が中心になるというイメージを持っています。

【委 員】 話は変わりますが、以前、高山市民文化会館と高山市総合福祉センターの動線を回廊で結ぶ話がありましたがどうなりましたか。

【事務局】 融雪もキャノピーもかなりお金がかかりますので、予算上の問題もありますが、基本的には駅周辺整備事業の中で整備する予定はありません。高山市総合交流センターについては、大きな建物を建てる予定は今のところありませんので、そういったものをしっかり位置付けしながら、高山市民文化会館を今後どうするのかといった問題も含めて考えると、現段階で回廊を整備するのは時期尚早ではないかと思う。

【委 員】 交流広場はある程度広い地面に寝転がって、ゆっくりできるようなところがあれば良いと思いますが、例えばヤンサ 21 は街のど真ん中に市民が集まて行うのが本来ですが、今はどちらかというと踊り手さんのためのイベントになっているように思う。交流広場でヤンサ 21 を行えば、市民が自

由通路を通して見に来たりできて良いと思いますが、もし雨が降った時には高山市民文化会館で行えますし、そういう意味で箱物を作るよりは自由度の高い広場を作ると非常に良いと思う。

【会 長】 駅前広場の容量ですが、将来人が増えてあふれるような事態にはなりませんか。

【事務局】 自由通路の幅などは、そういったことも考慮して設定しています。

【副会長】 飛騨・世界生活文化センターの責任者という立場からお話しします。今年は国際会議、全国大会などの開催を多数予定しています。例えば10月30日に全国女性消防団2,700人が集まり大会を開催します。10月29日午前10時に高山駅に800人が到着します。この方たちはシャトルバスで15分間隔で当センターに到着します。この800人が高山駅のどこでシャトルバスを待っているのか謎です。このような事は今年は4,5回以上ありましたが、その都度主催者が駅の改札口にテントを張って案内しています。この800人の待機場所ですが、小広場に屋根を付けて多目的に使えるようにしていただけると待機できますし、おもてなしの空間になります。西側が完成すると話は変わってくると思いますが、今の状況ですとそういう状況です。そう考えると、東側は配置がほぼ決まっていますので、西側ができるまで小広場は多目的に使えるような空間にしていただけると良いと思う。

【会 長】 将来的に飛騨・世界生活センターを中心に国際会議などが開催され、高山駅に大量のお客様が来る時間帯に集中することが出てくると思う。そういった時でも、お客様の対応ができるよう考えておかなければいけないと思う。

【委 員】 西側に駐輪場がないと、自転車を利用する高校生等がわざわざ東側へ回らなければいけませんので、西側にも駐輪場は必要だと思う。

【事務局】 ただ今のご意見について、工期的なことを説明いたします。駅舎ですが、今年JRさんが実施設計をされますが、最初に仮設駅舎を作っていて、そこで業務ができるように準備していただいてから、現在の駅舎を壊して駅舎と自由通路を作ることとなります。平成28年度には自由通路と駅舎が完成し、平成29年度に仮設駅舎を撤去し、駅前広場の整備を完了させたいと考えています。それから総合交流センターですが、今年度基本計画を策定する検討をしていますが、その中で西側に駐車場、駐輪場、トイレ

を整備していこうと考えていますので、西口広場の中には駐車場、駐輪場、トイレは入っていませんのでお願いします。

【委員】 話は変わりますが、先程の講演会の質疑で最初に質問された方についてですが、あの方は駅周辺整備事業について知らないから、市民にもっと広く周知して、市民の声を聞いて欲しいということと言われたのだと思う。当協議会は色々な団体の方が出席されていますので、市にはこまめに状況を市民に説明していただきながら、逆に今度は我々が各団体の意見を取りまとめて、こういった場で意見を伝えなければならないと感じました。報道などを通じて、市民に今こんな状況だということを伝えていただきたいと思います。

【会長】 私もそう思う。出来る限り情報を公開して、市民の皆様に意見を出していただきたいと思います。ただし、採用できない意見についてはしっかりと理由を説明することが、結局は皆様の合意を得る近道ではないかと思う。

【委員】 意見をいただいて終わりではなくて、考えを説明してやり取りさせていただいて、理解していただくことが一番大事ではないかと思う。

【会長】 では、皆様のご意見も尽きたようですので、本日の協議を終了します。